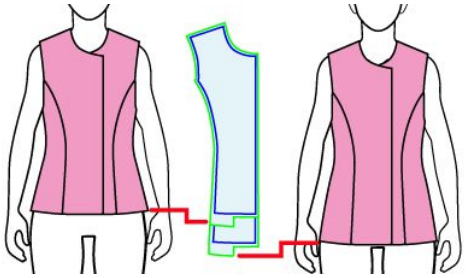
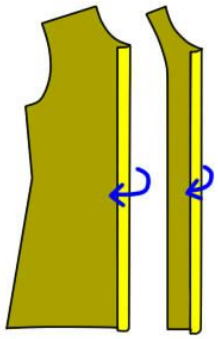
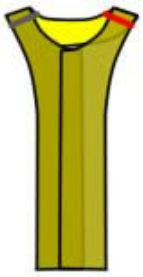
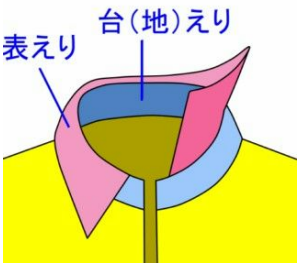
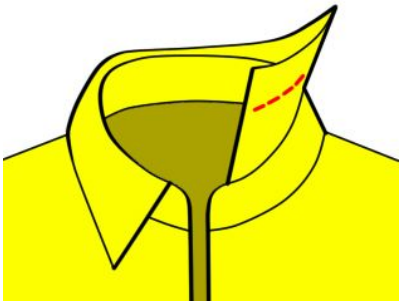
表　裏　接着 芯	裁断した全てのパーツの端をほつれ止めをしてください。 型紙で指示されたパーツの裏に接着芯を付けてください。 くわしくは縫う前の下準備にまとめているので見てくださいね。
	型紙のすその複数の線について。 選ぶすそによって丈の長さを変えることが出来ます。 実際に型紙を体にあてて鏡などで確認して作りたい長さを決めてください
	前身頃と見返しの中心の縫い代をアイロンで出来上がり線で折ってください。
	 前と、後の見返しを表が内側になるように重ねて肩を縫ってください。
	 前後の身頃（胴体部分）を表同士が内側になるように重ねてください。 肩を1ｃｍの幅で縫ってください。



このような2つのパーツでつくるえりです。
各2枚づつ切ってください。
上側を**表（上）衿**、下の方を**台（地）衿**と呼びます。



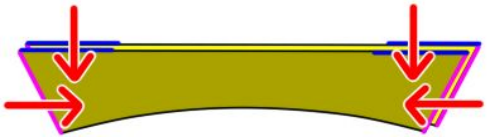
どちらが表から見えるえりか、裏に隠れるえりかわからなくなりやすいので、しつけ糸などで、裏に隠れる方のえりに印をつけてください
完成したら抜くので玉止めなどはしなくていいです。

図1

図2

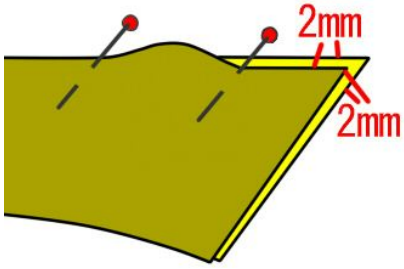
えりのゆるみを作ってください。
このタイプのえりは図のように表に折り返すためのカーブと
首にそったカーブ（図1）があります。

外側のカーブと内側のカーブでは外側のほうが長く、内側が短くなります。
その差を補うために2～3mm表になるほう（外側に折り返すほう）を内側に入れ込んで、長さを調節する必要があります。
これをしないと図2の右のえりのように長さの不足する表側のえりが引きつってえりの先がぴょこっとあがってしまうので注意が必要です。

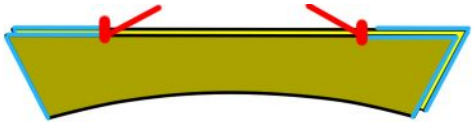
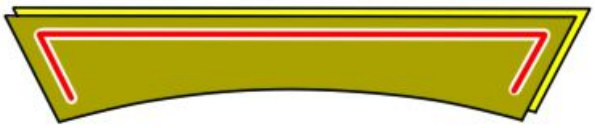
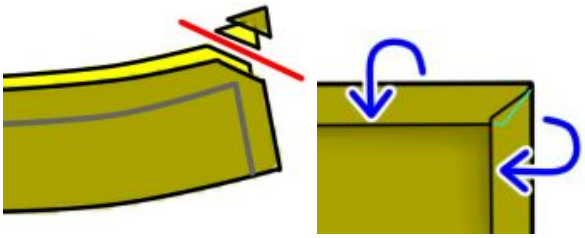
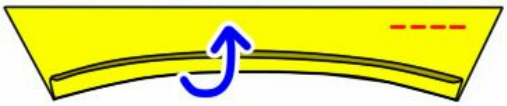
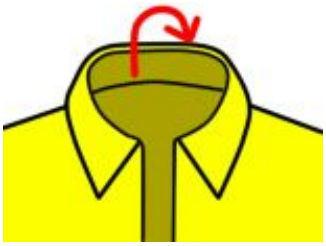
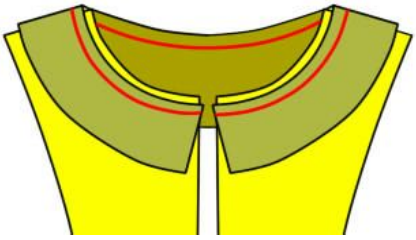


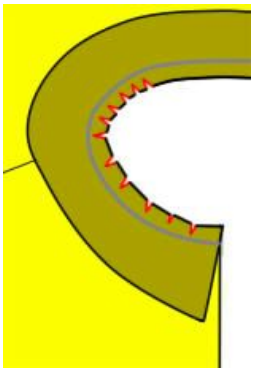
この区間は均等に待ち針を刺し縫う。

えり先のゆるみの作り方



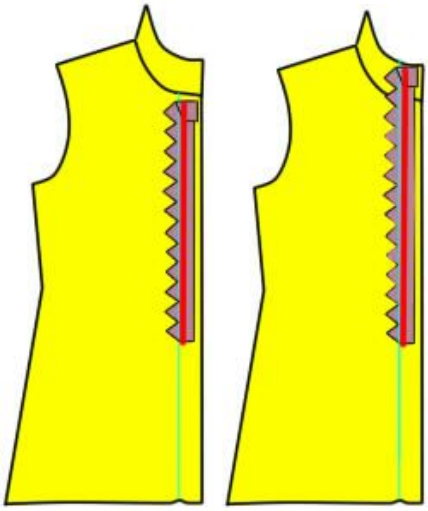
このとき図Aのように「表

	に見えるほうのえり」（印の付いていない方）を2～3mm内側にずらしてまち針をさしてください。 しわが入らないように、目打ちなどでダブ付いた分を内側へ押しこむようにして縫ってください。
	 シャツカラーの縫い方 衿（えり）を表が内側になるように二枚重ねて縫ってください。 ※衿に縫い付ける所は縫わない。
	縫い目を切らないよう2mm程はなれた所で、角を切ってください。 縫い代を折りたたんでください。
	表に返して5mmの所に表から縫って（ステッチ）固定してください
	 印がある方へえりに付ける部分の縫い代を折ってください。 この時えりがズレます。 このずれが折り返しの緩みになります。 赤の矢印の方向のゆるみ。
	 身頃とえりを表同士が内側になるように重ね台えりを縫ってください。
	表にした見返しに裏を上にした台えりを重ねて縫って下さい。

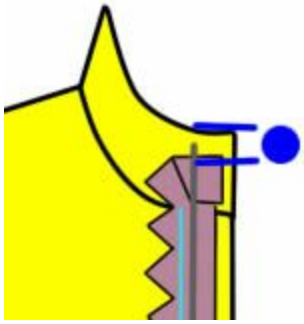


カーブがきついので８～９ｍｍほど切込みを入れてから縫うと縫いやすいです。
縫い代は広げてください。

ファスナー付け
オープンファスナーの調整方法はここ

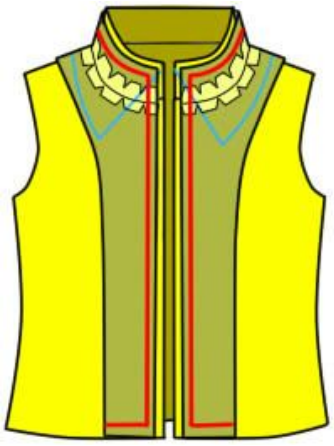


前身頃の上に裏側が見える状態でオープンファスナーを重ねてください。
最初にアイロンで折った縫い代より1mm程度、ムシ（レール部分）が沸き側に出るように置いてください。



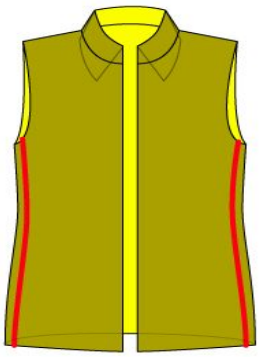
身頃だけに付けたい場合はえりの下のところから
えりの上の所まで付けたい場合はえりの縫い代の１～２ｍｍ手前に端の金具が来るようにしてください
ファスナーの金具の先の端の部分は縫い代の外側に向かうよう折りたたんでください。

表えりのしつけのつけていない方が見えるように台えりの上に重ねてください。



身頃の台えりと裏にした見返し側の台えりで表えりをはさんで縫って下さい。
前中心はオープンファスナーがあるので段差が出来て縫いにくいという場合は、
ミシンの押さえをこのような形のファスナー押さえと取り替えてください。
※形はメーカーによって異なります

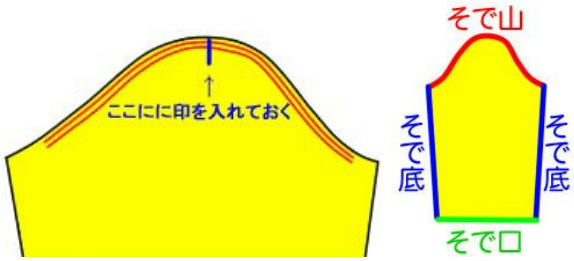
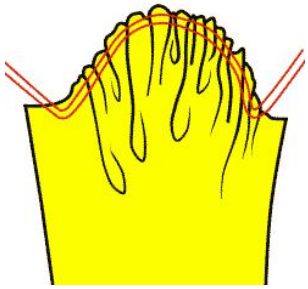
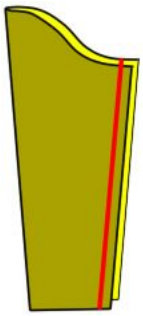
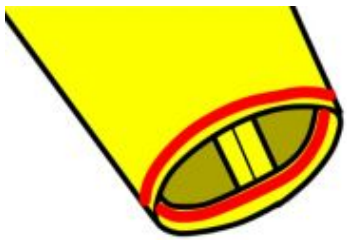
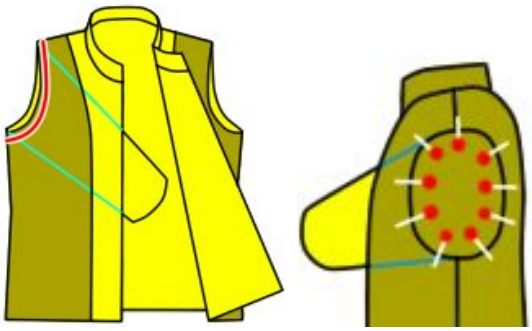
見返しを裏へひっくり返してください。
えり首の縫い目から5mmの所を縫ってください。



前後の身頃を内側が表側になるように重ねてください。
脇を1ｃｍで縫ってください。

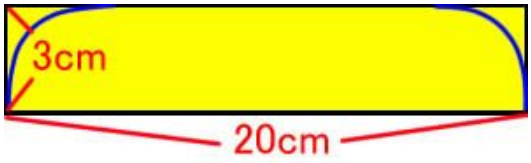
すそをアイロンで折って縫って下さい。

袖のつけ方

	そでの山のところにギャザーを寄せてください
	ギャザーを寄せたら裏の方の長く残しておいた糸だけを引っ張りギャザーを寄せます。 （これを一度覚えておくとスカートやいろいろな事に応用がきくので、是非チャレンジしてみましょう！）
	 **ミシンの糸調整を元に戻してください。** そでを表側が内側になるように折って1ｃｍ幅で縫ってください。
	 そでを表側にひっくり返してください。 アイロンで縫い代を中に折ってください。 直線で縫い代より5mm狭いくらいの幅で内側から縫ってください。 アイロンで折りぐせをつけておくと綺麗に縫えますよ！
	 見頃（胴部分）は裏返して、そでは表にひっくり返す。 見頃の中にそでを入れる。 肩と、脇を最初にあわせてまち針でとめていく。 縫う場所より２～３ミリ横を仕付け糸を使い縫っておくと、ミシンで縫う時に針を折る心配がなくていいよ！ しつけ縫いをしたらミシンで縫ってください。
肩パットのつけ方	

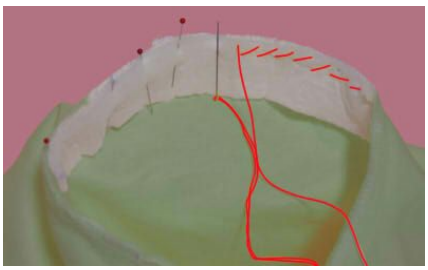
同じ型紙で作った服の肩パットの有無の比較写真を撮ってみました。
自分の作りたいシルエットに近いもので作ってください。
肩パット+芯をつけると、市販のスーツのように肩が丸く柔らかく仕上がります。
ドミット芯とは目の詰まったわたのシートです。
キルト芯よりも密度があってしっかりしています。

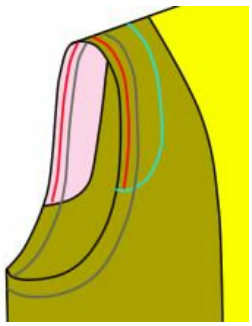
ドミット芯をつける場合は
横20ｃｍ縦3ｃｍに切ってください

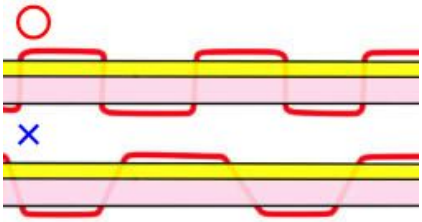
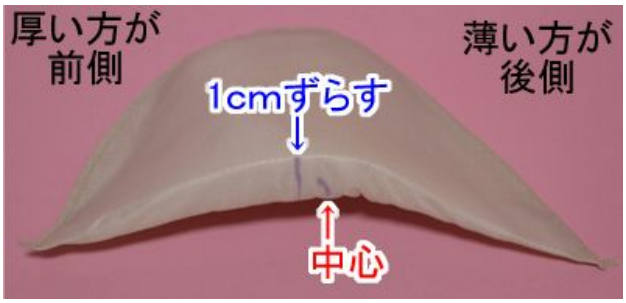
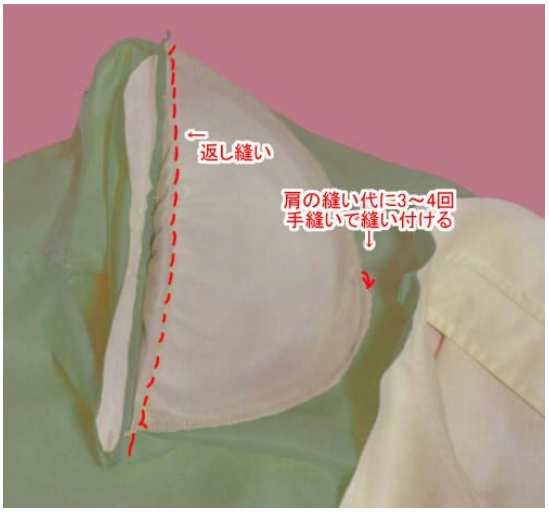
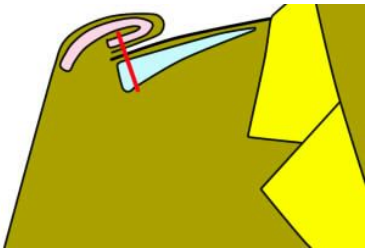
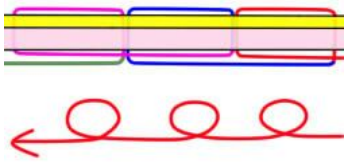


角があると表に形がひびくので、角を丸くしてください。
そで山に角を落としたほうが袖口側に向くようにドミット芯をつけてください。

服を裏返した状態で袖の中にドミット芯をつけてください。




縫う場所は縫い代より外側を縫ってください。

	縫い方は手縫いでどんな縫い方でも構いません。 ただ、出来るだけ布に対して垂直になるようにして縫ってください。
	肩パットは物にもよりますが左右対称ではないものは厚みがある方が前、薄い方が後です。 肩山も中央ではないので、中心より１ｃｍ前側に印をつけて、そこを肩の縫い代にあわせてください。す
	トルソーをお持ちであればトルソーに着せて、しわが入らないようにピンで固定してください。 ポイントは肩パットを出来上がり線より5mmはみ出させる子とです。 これで袖が肩パットの上にのって丸くなります
	  手縫いで返し縫いをしてそでぐりの縫い代に肩パットを縫い付けて下さい。 反対側は手縫いで3～4回肩の縫い代に縫い付けてください。

ファスナーの調整方法

ファスナーの長さ調整にはくいきりという工具があると便利です（ホームセンターで200円くらいであります。100円均一にもありました）

ファスナーどめの金具

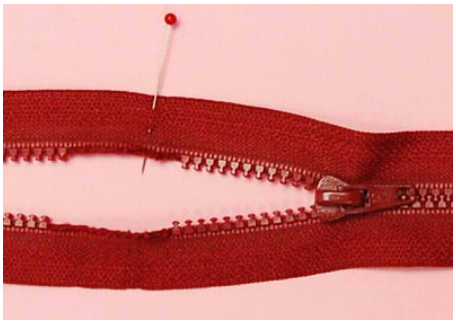
手芸店で10個100円前後

下

上

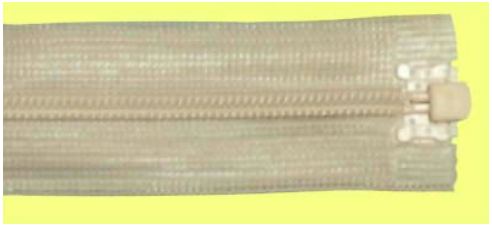
オープンファスナーや金属ファスナーはサイズ変更は下側でのサイズ変更がしにくいので、上側を調節してください。

くいきりで不要なムシ（レール部分）をとりはずしてください。

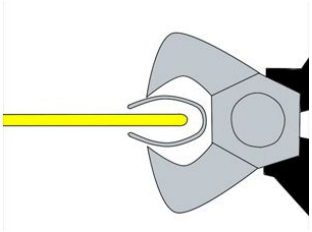


ファスナー金具がつくので、金具の分も外して下さい

左からｺｲﾙﾀｲﾌﾟの樹脂ファスナー
ﾌﾟﾗｽﾃｨｯｸのビスロンファスナー
金属の金属ファスナー



コイルタイプのファスナーはムシを外さなくてもよいです



ファスナーどめの金具でファスナーをはさむ

必要な材料
表生地、接着芯、オープンファスナー、糸

・ポリエステルツイル
化繊なので綿ツイルに比べて軽いです。
しわになりにくいです
取り扱うお店によっては同じ名称でもやわらかかったり、かたかったり質感が異なります。
硬いものはそのまま、やわらかいものは裏全面に接着芯を貼ったりして補強すると仕上がりが良くなります。

・綿ツ イル
ポリエステルツイルに比べ、柔らかいですが、出来上がった服を着て長い時間座ったりするとシワが入ります。
扱いやすい生地です
一般的な手芸店でも手に入りやすい生地です。

・カツラギ
綿だが厚いのでシワになりにくい。
厚く硬いのでがちっと↓風合いになりやすい。
ただ素朴な風合いなので、色やデザインによってはカジュアルに見える場合も。

・オープンファスナー
型紙を体に当てて、服の丈を決めたら、その型紙の前中心をはかって長さを決めてください。
えりの上までつけるのか、途中までつけるかで長さが異なると思うので。
長さが決まれば、その長さをひかえてお店に行けば、大体の手芸店であれば長さを調節してくれます。
調節してもらうのを忘れた場合は上記のように自分で調整してください。
ファスナーが目立ってもいいデザインならこういうムシ（レール部分）が大きいものでもいいですが

あまりファスナーが目立って欲しくない場合は薄地用を選んでください。